

ゆうかり放送委員会提供
ゆうかりに乾杯
第11回放送の概要 (2009年12月26日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) 接着剤・防水・シーリング材のことなら何でもご相談ください。創業 60 年、信頼と実績の接着剤・防水資材コンサルタント岸田資材工業株式会社 (電話: 078 - 575-2953) のご協力でお送りしました。

(CM) JR兵庫駅山側すぐの「神戸ルミナスホテル」(電話: 078-511-7700) のご協力でお送りしました。

1. オープニング

昨日は小・中学校の終業式でしたが、インフルエンザの影響で授業をした後終業式を行ったところもあったようです。3 学期は 1 月 7 日からですがこの日から授業がある学校もあるでしょう。ルミナリエは始めの頃は将棋倒しになるくらい大勢の人が来ていましたが、今年はそれほどではなかったが結構人は出ていました。市役所の上から見ると東遊園地に多くの屋台が出ていることにびっくりしました。昔マレーシアの留学生を連れて行ったとき迷子になり大騒動したことがありました。今年は郵便局の前でルミナリエと鉄人 28 号の切手を購入し京都の友人に送り喜んでもらいました。ルミナリエは震災の鎮魂の意味で始められたので命の尊さを孫たちにも教え、亡くなられた方々の分まで頑張ってお生きていきたいと思っています。

2. ゲストコーナー: 建築家で下町レトロツアーの山下香さん

(1) 本日のゲストは我々と同じ兵庫高校卒業の 1974 年生まれのとても若い方です。

高校時代は夢見る少女で好きな勉強しかやらなかった。宿題も嫌で夢に逃避し夜な夜な夢を見ていた。夢はカラーで全て覚えていたので翌日の授業中に夢ノートに書き記していた。ノートはびっしり 1 冊の分量になっていた。しかし震災で行方不明になった。夢を見ていたころ一度兵庫南部の夢を見た。そこは日本一長い運河が流れており、当時運河は貯木場になっておりはまったら危ないので行ってはいけないと言われていたので謎の地域であった。夢の中で面白い古いところが一杯あるのを見て南には何かある、いつか行きたいと思っていた。それが今のレトロツアーに繋がっている。実際に行ったのは高校卒業後の 19 歳のとき 1 回だけで、その後は 30 歳を過ぎてからで、そこからレトロツアーが始まった。

(2) 目指す大学については、初めて京大を見に行ったときレンガ造りの赤い校舎の横にある銅像が、本来崇められるべきものがペンキで真赤に塗られ、下に怒る人と書かれていたのを見た時ここしかないと感じた。このようなことをほったらかしにしている学校はどのようなところなんだろうということ波長が合うと思った。その後京大の時計台の写真を部屋に飾り、絶対この銅像の下で勉強しようと思った。銅像は折田先生でホームページで怒る人からの変遷を見ることが出

来る。京大は受験したが2回目もすべった。中学2年の時から異人館が大好きで建築はずっと興味を持ち続けていたが、京大の西田幾太郎の西田哲学を勉強するため文学部に行くため方向転換し文系の勉強をしていた。しかし受験前に建築に進みたいと急に思ったがその気持ちを押し殺し、入学してから夜間の建築学校に行けばよいと考えて受験したが落ちた。落ちたときは悲しかったが建築が出来るという思いがあった。建築に行くには数学が必要だが、1年生の担任がとても怖い数学の先生で数学が出来なければ人間ではないような感じで言われたが得意科目であった。英語は中学では得意であったが逆にボロボロになった。京大以外は受験しなかったので大阪にある夜間の修成建築専門学校に入った。当時の青写真は京大で西田幾太郎の哲学を学び英国の大学に留学するという美しい絵を描いていた。しかし実際は夜間の修成建築専門学校に入りニッカポッカを穿いたお兄ちゃん達と一生懸命勉強することになった。専門学校の非常勤の先生がたまたま京大で、夢は何だったのと聞かれイギリスに留学することと話したら建築で留学することを薦められ、グラスゴー大学に留学することになった。学士号を終えた後フランスのパリ建築大学の大学院に行った。グラスゴー大学の最後の学年の時にイギリスの大学とフランスの大学の交換留学生として派遣してもらった。

(3) レトロにはまっていったのは留学中の論文として「兵庫区南部とパリ19区の比較」をしたことに関係している。両者には中央市場があり、運河があり、鉄工所があり、工場があり、屠殺場もあり非常に似通っている。高校時代に夢見ていた地域、行きたかった地域にはまることになった。兵庫区南部に本格的に足を踏み入れることになり、中央市場や町工場を回り神戸市からの助成金をもらい神戸ブレイン研究として鉄工所の調査をする過程で南部地域を非常に面白いと思うようになり、パリ19区との比較をしようと考えた。比較の結果、両者には運河があり、鉄道、高速道路とその周りの中央市場などの建物が似ているのは、材料を運搬する中で鉄道や運河を使ったりするので回りに集まってくる建物が似てくるということわかった。これは大きな意味であるが、小さな意味では人々の生活や住商工混在が似ていることである。ここをどのように活性化していくかということが今やっているレトロツアーに繋がってきている。ツアーは丁度4年目になり、途中抜けたこともあるが34回行ってきた。

ナカちゃん：観光業界でも生涯教育で外に出ているが街の雰囲気を楽しむツアーはすごく人気がある。国の政策でも観光に力を入れているので新しいツーリズム資源として注目を浴びている分野である。

ツアーの行く先は兵庫区、長田区南部地域であり、兵庫区の端がハーバーランドの少し西側の稲荷市場、東出、西出地域(東川崎方面)から西の端が新長田になり、市営地下鉄海岸線沿いである。

ツアーによりわかったことは、びっくりしていることとしてツアーを通してツアーに協力してくれるお店の方、参加者同士が仲良くなり勝手にイベントをしたりしているようで、どうなっているのか知ってみたい気持ちはある。協力者が268人出来てきたということについて大学の先生が驚いていたが、驚かれたことに驚いてしまった。

ナカちゃん：町おこしはそこに居る人がやる気を起こさないとダメであるがとてもいい傾向である。

ツアーでは店の情報など事前調査を徹底してやっている。レトロツアーの会長は和田岬で淡路屋という駄菓子屋さんをやっておりクレープも販売している。その店のおばあちゃんがやっていた一膳飯屋さんを会長がOLを辞めて引き継いだ。震災前の12月に出来たが震災で一時休業、三菱や川崎重工のOL向けにやっていたが今は子供しか来ないようだ。

(4) レトロの保存活動については、中学時代から異人館が好きで神戸地方裁判所の保存活動を一生懸命やっていたがつぶされ、外だけ中途半端に残された。その後もどんどん古いものがつぶされていく中で古いものが消えていくのは仕方ないという悟りの境地、諦めの境地に入った。最

近中央市場もつぶされその中にあったすごく良い喫茶店がありそこも終わりかなと思ったとき、店主も元気で店内の家具もあるのでその家具を皆で保管しイベントのときにセッティングし、店主に来てもらってコーヒーをいれてもらえば違う形の保存活動になるという考えから、11月1日二葉小学校でダンパとおかんアート展で喫茶店を復活した。今はレトロなもの新しい形での保存の仕方を模索しているところである。今までは自分自身がつぶされたら泣きそして怒り、怨念を持ってやっていた。大学で学んだ建築とレトロのつながりは相反しており模索中である。

3. ゆうかり大好きコアラさんの地域瓦版

来年1月は震災15周年ですが「神戸長田まちと生活の再生」ということで青池憲司監督による野田北部、鷹取の人たちをずっとドキュメンタリーで残してきたものを、アスタくにづか1番館において1月16日(土)から19日(火)まで上映される。全14部の連作のうち1~6部と、14部が上映される。15周年の節目に今ある命を大事にすること、ものを大切にすることなど想いを深めてほしい。また1月17日は新長田駅前で10時から22時まで「1.17神戸に灯りを in NAGATA」の震災追悼行事が行われます。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで : buyou49@nifmail.jp